

学校法人桐丘学園  
桐生大学短期大学部  
機関別評価結果

平成23年3月24日  
財団法人短期大学基準協会

## 桐生大学短期大学部 の概要

設置者	学校法人 桐丘学園
理事長名	関崎 悦子
学長名	多田隈 卓史
ALO	石黒 康弘
開設年月日	昭和38年4月1日
所在地	群馬県みどり市笠懸町阿左美606番7

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活科学科		40
アート・デザイン学科		60
	合計	100

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	助産学専攻	30
	合計	30

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

桐生大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 21 年 7 月 1 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

「女性の経済的自立」を目指して創立された学園は、昭和 38 年に当該短期大学を開学し、「社会に出て役立つ人間の育成」という教育理念を掲げて、地域社会の求める有為な人材の育成に努めて今日に至る。

現在、当該短期大学には 2 学科、1 専攻科が設置されており、世代を超えたコミュニケーション能力・おもてなしの心・社会性を備え、地域社会でリーダーシップを発揮する人材の養成を目的とする生活科学科と、デザイン・芸術についての専門性を養い、創意あふれる表現力を生かして社会の要請にこたえるアート・デザイン学科がある。いずれの学科も、建学の際の教育理念を踏まえて学科目標を定め、教育の展開に努めている。教育課程の編成に当たっては、専門教育を充実させるために講義科目とのバランスの取りながら、演習・実験・実習等科目の比率を高くしている。

教員組織は、短期大学設置基準を充足し、教員は授業・研究・学生指導その他の教育研究上の業務に意欲的に取り組んでいる。校地・校舎面積は、短期大学設置基準を充足している。生活科学科では演習・実験・実習のために教育環境が整備され、アート・デザイン学科でも演習・実習のためにコンピュータその他の設備が適切に整備されている。

各学科とも専門職養成を主にして教育に当たり、その成果は資格取得状況が非常に高いことから明らかである。卒業生は社会の各分野で活躍しており、学生時代に受けた教育が就職後も生かされている。どの学科も退学者が極めて少なく、休学者や留年者がいないことは、クラス担任制を導入し、また少人数規模の授業体制を実施していることの結実である。

学科目標は教育方針を踏まえて適切に設定され、入学者受入方針でも分かりやすく示されている。学習支援面ではクラス担任制を生かした指導が行われており、また、学生支援センターやウェルネスセンター等が整備され、学生の主体的な活動を促すサポート体制も整えられている。教員はそれぞれの専門領域の特徴を生かして研究活動を展開しており、教員の論文・学会発表等の年間研究活動状況が自己点検・評価報告

書に公表されている。

学生の社会的活動については、併設大学と共同の地域連携センターが中心となって積極的に推奨し、地域社会から寄せられてくる数々の協力依頼にこたえて様々な活動に参加している。四年制大学の開学など、学内の大きな改革の中で、学園は四年制大学を中核に据えて当該短期大学と併設大学が一体化した管理運営体制の確立に努めている。

中・長期計画に基づいた事業が関係部門の意向を踏まえて慎重に決定され、適正に予算が執行されている。財務体質の課題については十分に把握しており、学校法人全体の財政健全化を含めて中・長期計画が策定され、実行に移されている。財務諸規程は整備され、施設設備、物品は規程に基づき適切に管理されている。

当該短期大学は、この数年間、「自己点検・自己評価委員会規程」に基づき教育研究活動等の自己点検・評価を進め、平成 19 年度からはその成果を報告書として毎年度作成し、全教職員の改革・改善に対する意識の高揚に努めてきた。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 生活科学科は、資格取得のための指導が徹底していて無欠席の学生が大部分となっている。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- クラス担任制や少人数授業の実施などが効を奏して、授業評価での学生満足度が高い。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 各学科、各学年に 1 人ずつ担任が配され、さらに副担任がそれをサポートするク

ラス担任制がとられていて、学生指導については、履修指導、出席・学習の取り組みへの指導、就職指導など、学習、生活、進路にわたってきめ細かい指導体制が整えられている。

#### 評価領域VI 研究

- 美術系の教員にとっては「研究＝制作活動」であり、そのような経費を必要とする教員の研究活動に対しても適切な研究費が支給されている。

#### 評価領域VII 社会的活動

- 生活科学科では、みどり市に暮らす高齢者の方々へ手作り弁当を提供する「シルバーランチ」のボランティア活動が、十数年にわたって続いている。
- アート・デザイン学科では、わたらせ峡谷鉄道の列車内でのファッションショーなど多くのイベントに学生が参加協力し、桐生市やみどり市の各種イベントのポスターデザインの制作も行っている。

#### 評価領域IX 財務

- 省エネルギー及び地球環境保全の一環として ISO14001 の認証を受け、五つの環境方針や環境目的に沿って、学生・教職員が大学の日常生活の中で環境教育の推進やゴミの分別の徹底、廃棄物の削減への努力を日常的に行っている。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

#### 評価領域VI 研究

- 当該短期大学独自の刊行であった紀要が、併設大学と合同の刊行に変更された。同紀要が短期大学部教員の研究発表の場としても十分に活用されることを期待したい。

#### 評価領域VIII 管理運営

- 「大学運営評議会」の設置については根拠を明らかにし、また各種委員会については学則及び教授会規程に明確に規定して運営されたい。
- 理事会、評議員会の欠席者に対しては一括の委任状を提出させるのではなく、審議事項ごとにその賛否を記載した委任状を提出させて議事を進めるように改められたい。

#### 評価領域IX 財務

- 余裕資金があるものの、短期大学部門及び学校法人全体の収支バランスの改善が

望まれる。

**(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該学園は明治34年に桐生裁縫専門女学館を創立し、今日までの約110年間「女性の経済的自立」を目指し、絹織物の地場産業と連携した人材養成、専門職養成に努めてきた。当該短期大学は「社会に出て役立つ人間の育成」を教育理念として昭和38年に設置された。

現在、当該短期大学には2学科、1専攻科が設置されており、世代を超えるコミュニケーション能力・おもてなしの心・社会性を備え、地域社会でリーダーシップを発揮する人材の育成を目的とする生活科学科と、デザイン・芸術についての専門性を養い、創意あふれる表現力を生かして社会の要請にこたえるアート・デザイン学科がある。いずれの学科も、建学の精神を踏まえて地域の要請にこたえる教育を展開している。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

教育理念である「社会に出て役立つ人間の育成」を踏まえ、生活科学科（栄養士養成課程）、アート・デザイン学科がそれぞれ独自の分野の教育に当たっている。教育課程の編成に当たっては、専門教育を充実させるために講義科目とのバランスを取りながら実習や演習科目の比率を高くしている。

生活科学科は「栄養教育」、「臨床栄養」、「健康栄養」の三つの履修モデルを提示し、科目選択に自由度をもたせる教育課程を編成している。アート・デザイン学科は5コースに分け、それぞれのコースで専門的な知識・技術の修得ができるように教育課程を整備している。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動においては、学生の満足度をつぶさに把握するとともに、専任教員歴 3 年未満の教員には研修を課し、公開授業なども実施して授業力の向上に努めている。学生の満足度は各学科とも非常に高い。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

生活科学科、アート・デザイン学科とも、教員組織は短期大学設置基準の規定する教員数を充足し、教員は授業・研究・学生指導その他の教育研究上の業務に意欲的に取り組んでいる。アート・デザイン学科教員の平均コマ数は約 12 コマで、生活科学科教員の 2 倍近くになっているが、それは演習科目を多く設置し、かつ少人数指導の充実を図るために生じる結果であって、美術系の他短期大学においても同様の状況がみられる。

生活科学科では演習・実習・実験のために教育環境が整備され、アート・デザイン学科でも演習・実習のためにコンピュータその他の設備が適切に整備されている。図書館は併設大学との共用で本館と分館の 2 館が設置され、学生の利用に供するのみでなく地域住民にも開放されている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

各学科とも専門職養成を主にして教育に当たり、その成果は資格取得状況が 100 パーセントに近いことで明らかである。卒業生は社会の各分野で活躍していて、学生時代に受けた教育が就職後も生かされている。

どの学科も退学者が極めて少なく、休学者や留年者がいないことの意味は大きい。クラス担任制を導入し、また少人数規模の授業体制を実施していることの結実である。当該短期大学では欠席する学生は皆無に近い。この事実は当該短期大学が組織をあげて教育力を発揮してきていることの表れにほかならない。学生満足度調査では 5 段階で 4 を上回る数値が示されている。学生の興味・関心を引き出す授業の実施に全学的に取り組んでいて、その教員の姿勢が学生の学習意欲を喚起している。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

学科目標は教育方針を踏まえて適切に設定され、入学者受入方針でも分かりやすく示されている。入学前には入学手続者全員に対してガイダンスを行い、入学直後には学生生活や履修等のオリエンテーションを周到に行っている。

学習支援面ではクラス担任制を生かした指導が行われ、基礎学力の不足する学生に対しては 1 年次の授業の中で、また進度の速い学生に対してはオフィス・アワーでの確な対応を行っている。学生支援センターやウェルネスセンター等が整備され、学生の主体的な活動を促すサポート体制も整えられている。求人票や進学に関する情報については、学内の様々な箇所に設置されているパソコンで自由に閲覧できる。学園には独自の奨学金制度もある。

## 評価領域Ⅵ 研究

生活科学科、アート・デザイン学科は、いずれも「実学実践」の専門教育を行っている。建学の精神や教育方針を生かしつつ、学問的な専門性の追求を学生にも行わせるためには、各教員が社会や時代の要請を受け止めながら最先端の研究成果に触れて、専門分野の研究を深めることが欠かせない。

教員の論文・学会発表等の年間研究活動状況は自己点検・評価報告書に公表され、研究費も「桐生大学・短期大学部教員個人研究費規程」等に基づき適切に支給され、研究成果の発表の場として紀要が刊行されているが、併設大学と合同の刊行に変更された。研究についての情報は地域社会に広く公表し、市民に対する知的貢献の機会を模索されたい。教員の研修については事前に提出される計画書に基づいて週 1 日程度認められ、また、併設大学と共通の共同研究費が設けられ、申請があったものに対して審査の上、研究費が支給されている。

## 評価領域Ⅶ 社会的活動

学生の社会的活動については、併設大学と共同の地域連携センターが中心となって積極的に推奨し、地域社会から寄せられてくる数々の協力依頼にこたえて、学生が様々な活動に参加している。

学内の教員も市民対象の社会的な活動を行っているが、「桐生大学とみどり市との連携協力に関する包括協定」を基に実施している学生と地域との連携協力を参考にして、教員の地域貢献を組織的、計画的に実施することが望ましい。

## 評価領域Ⅷ 管理運営

平成 20 年度に桐生大学開学、平成 22 年度に短期大学看護学科廃止、平成 20 年度には生活科学科の定員 100 人を 40 人に減員という大きな学内改革が進行する中で、新たな管理運営体制の確立が模索されている。学園としては四年制大学を中核に据えて併設大学と当該短期大学が一体化した管理運営を目指しており、新たな体制に適應するよう努力している。

短期大学は、四年制大学とは独立した短期高等教育機関である。したがって、短期大学の管理運営が円滑化され、教育研究基盤の安定化を図ることが欠かせない。場合によっては四年制大学と一体化した管理運営を行う方が合理的なこともある。両者にまたがる組織を設置する場合には、その根拠を明確に規定することが必要である。

## 評価領域Ⅸ 財務

中・長期計画に基づいた事業が関係部門の意向を踏まえて慎重に決定され、適正に予算が執行されている。決算終了後の計算書類、財産目録等も適正に作成され、監事

による監査や公認会計士との連携も適宜、適切に行われている。余裕資金はあるものの、学校法人全体では3ヶ年、短期大学部門では平成20年度、21年度と支出超過となっている。その状況については理由が把握され、学校法人全体の財政健全化をも含めた中・長期計画の実施に努めている。短期大学の永続を可能とする資金の維持は十分で、財務情報はウェブサイトなどにより公開されている。

財務諸規程は整備され、施設設備、物品は規定に基づき適切に管理されている。火災等の災害対策、防犯対策、学生・教職員の避難訓練等の対策、コンピュータのセキュリティ対策も適切に行われている。省エネルギー及び地球環境保全の一環としてISO14001の認証を受けている。

#### 評価領域X 改革・改善

「自己点検・自己評価委員会規程」に基づく教育研究活動等の自己点検に努め、その報告書を平成19年度から毎年度作成し、全教職員の改革・改善に対する意識の高揚に努めてきた。

特に、学生の授業評価については、従来、全科目同一の項目で行ってきたものを、授業の特色やその形態に合わせて講義・演習科目、実験・実習・実技科目、臨時実習科目の3領域に分類して、それぞれの授業の実態に応じた評価を学生に求めて授業方法の工夫・改善に努めるように改めた。数年後に実施する相互評価の計画については既に検討が始められている。

学園は将来計画に基づく改革を着々と進めてきている。それは学園経営を安定させるために理事会で慎重に検討されてのものである。しかし、短期大学の独自性が固持しにくくなっていることから、管理運営面での確認が必要である。学園は桐生という絹織物の伝統的な地域に立地することを誇りにして、地域社会のニーズにこたえる人材養成に努めてきた。短期高等教育機関として果たしてきたその輝かしい実績を踏まえて、次代を担う人材の育成に引き続き努められたい。